

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2295100099		
法人名	株式会社アイケアサービス		
事業所名	グループホームあいの街焼津		
所在地 (電話番号)	焼津市石津188 (電話) 054-624-7003		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年6月26日		

【情報提供票より】(21年 6月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人	
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.1人	

(2) 建物概要

建物形態	併設		新築
建物構造	鉄骨 造り	2 階建ての 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(6月 15日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本石井病院 あきにわ歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、大通りから一步入った住宅地にある。開設して一年が経過したところだが、家族会を設立し、運営推進会議も開催している。家族会や運営推進会議で課題を示し、相談するなどの取り組みを行うことで地域との関わりを推進し、利用者の生活の幅を広げていきたいと考えている。職員は、認知症高齢者の心理をよく理解して時間をかけて接しており、利用者の自然な笑顔が見られる。また、職員も明るく活動的に支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、職員全員に評価の意義について説明を行い、理解に努めた。分担してチェックを行い、それぞれ意見を出し合ってまとめたが、自己評価に取り組むことで、自分たちのケアを振り返る良い機会となったと考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表、民生委員、行政担当者、地域包括支援センター職員等の参加により開催している。事業所の活動報告と共に課題を伝え、事業所の理解に繋がるよう提起している。今後は、地域との関係づくりについて意見をいただき、活性化を図っていききたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームでの暮らしぶりや健康状態は、おたよりや電話、家族の来訪時を捉え、常に報告するようにしている。家族からの意見や要望は、家族会や運営推進会議においても提案し、参加者から意見をいただきながら検討を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との関わりが活発化するよう、運営推進会議で検討した結果、自治会加入が実現した。回覧板等で地域の行事が把握しやすくなり、今後は、防災訓練、清掃活動等積極的に参加しホームとの関係作りを図りたいと考えている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念として、住み慣れた地域で安心して暮らしたいという人々の希望を、あたたかい心と適切な介護技術で支えるサービスの提供と、介護を通しての社会貢献を挙げている。職員は、地域との関わりを大事にした事業所独自の理念について検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に笑顔を決やさず、穏やかに過ごせることを大切に支援にあたっている。また、地域との関わりを持つと努めている。	○	今後、職員間で話し合いの機会を持ち、事業所独自の理念を作り上げていく中で、共有化と実践につなげていくことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や庭先でのくつろぎ時に、近隣の人々と挨拶を交わしたり、町内会の行事に参加している。本年度から自治会に入会し、回覧板でホームの情報を知らせるなど地域との関係づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で取り組んだ。援助の振り返りができ、利用者との関わり方の改善点が明確になった。さらに他の職員がどのように感じているのか知ることができ、今後の改善に向け、共通理解を持って取り組むことができると考えられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3、6月に開催している。家族代表者、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加があり、活動報告を行ったり、課題を取り上げて参加者からの意見をいただくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは、ほとんど行き来する機会がない。	○	報告や情報提供等、様々な場面を捉えて行政担当者との日常的な関係作りに努め、今後の課題解決に向けた協働関係の構築につなげられたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の様子や健康状態を家族だよりに掲載し、利用料請求書と共に送付し、報告している。また、必要に応じて電話連絡を行ったり、家族の来訪時に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声を掛けたり、家族会やアンケートにより意見を出せるような取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職による利用者への影響を理解し、職員間の情報を共有して、ダメージを防ぐ配慮をしている。働きやすい環境作りに努め、職員の定着化を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修を実施しているが、現在、全員の参加は難しい状態にある。職員は、月2回の希望休みを利用して研修等に参加し、ミーティング時に報告し、共有に努めている。	○	職員の経験や習熟度に応じた学びの機会を確保できるように、研修計画を作成したり、日々の体験を学びにつなげていけるようなアドバイスや、内部研修の機会を工夫されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はまだ行っていない。	○	他のグループホームとの相互見学など、できるところから取り組まれたい。また、県内や全国の連絡協議会等に参加し、質の向上への取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談からサービス利用まで窓口を一本化している。自宅へ訪問して話を伺ったり、見学体験を通してホームの状況を実感してもらい、家族との関係づくりにも努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは自分でやってもらえるよう見守りを行っている。個々の状態を把握し、利用者の意思を尊重しながら、環境作りや声掛けに配慮している。また、職員も利用者に対して感謝の言葉を伝え、共に支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情を通して、利用者が何を伝えようとしているのか、汲み取りに苦慮している。	○	利用者とのコミュニケーションの取り方、理解の仕方など専門的な研修に参加して、利用者の意向把握に努められたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々のニーズの汲み取りに努め、職員で意見を出し合っている。また、家族の意見や利用者の生活歴などのアセスメントを含め計画に反映できるよう作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行っている。	○	職員の気づきや情報を確認するモニタリングシートを作成しているが、介護計画に十分活用されていない。利用者や家族の状況に沿ったサービス、また職員が記録している利用者の状態などを検討し、現状に即した介護計画が作成されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則家族が行っているが、状況に応じて対応している。緊急時は看護師により速やかに対応し、安心に繋げている。理美容は、利用者のニーズをまとめ、来訪してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を尊重し、これまでのかかりつけ医を継続して受診している。必要に応じて職員も同行し、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々に準備はしているが、ホームでの方針はまだ決まっていない。	○	利用者・家族の意向、医師との連携、ホームでの支援方法などを職員で話し合い、重度化や終末期に向けた方針を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導や、食事介助の際は、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねることのないよう、さり気ない声掛けや支援に配慮している。記録などの取り扱いも、丁寧に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで行う行事は大枠決まっているが、日常的には、一人ひとりの利用者のペースで自由に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	限られた利用者ではあるが、準備や片付けを職員と共に行っている。他の利用者も、湯呑み、茶碗、箸は個々に持参していただいている。メニューを一緒に考えたり、陶器の食器を利用するなど食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り利用者の希望に添って支援している。入浴拒否のある利用者には、様子を見ながら声を掛け、入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を使用し、利用者理解に努めている。過去に利用者が行ってきた洗濯や片付けなどの家事を見守りの中で行い、利用者の誰かの役に立ちたいとの思いを汲んでいる。また、家族の了解を得て電話で「声だより」を届けることを試みている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出の機会を積極的に支援している。季節の花見に出かけたり、近くのスーパーに買い物に行くなど利用者の希望に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠について、その弊害を十分理解しているが、ホームが2階にあるため、リスクを考え現在施錠している。	○	利用者の状況に合わせた職員の見守りの方法を共有し、止めるのではなく、声を掛けたり、一緒に外に出かけるなど安全面に配慮し、自由な生活を支援するよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はホーム内で実施しているが、十分ではなく、職員は不安を抱えている。	○	職員の不安を解消するために、マニュアル作りを職員で取り組み、消防署の協力を得て、定期的な避難訓練の実施を計画してほしい。また、様々な場面を想定して、何が困るのかを整理し、運営推進会議等で参加者から意見をいただきながら、地域住民との相互協力関係の構築につなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に、食事・水分の摂取量を記録し、職員間で共有している。利用者の状況に応じて、きざみ食等、形態にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、視線を遮るソファを配置し、ゆったりと過ごせる場を提供している。また、みんなで外出した時の写真や、利用者の作品を飾るなど工夫している。食堂から窓際のソファまで自然な光が入り、家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた部屋と、できる限り同じような雰囲気となるよう、ベッドや整理ダンス、小物の置き場を利用者と一緒に考えている。衣替え時、家族と連絡を取り衣類等の管理をお願いする等、連携を図っている。		